

製品名: MAGED1 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM85958**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	86.2kDa

抗原情報

遺伝子名	MAGED1
別名	Melanoma-associated antigen D1, MAGE tumor antigen CCF, MAGE-D1 antigen, Neurotrophin receptor-interacting MAGE homolog, MAGED1, NRAGE
遺伝子 ID	9500.0
SwissProt ID	Q9Y5V3
免疫原	この MAGED1 抗体は、ヒト MAGED1 の中心領域からの 20 ~ 224 個のアミノ酸からなる KLH 結合合成ペプチドで免疫化されたマウスから生成されます。

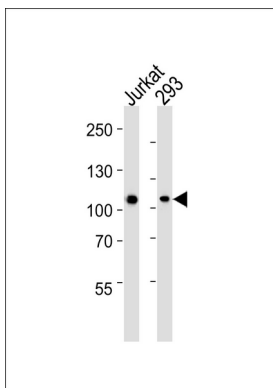
背景

神経細胞における神経成長因子 (NGF) 結合後のアポトーシス反応に関与する。NGFR/p75NTR に結合し、NTRK1/TrkA との結合を阻害することで細胞周期の進行を阻害し、NGFR を介したアポトーシスを促進する。DLX ファミリーメンバーの機能調節因子として作用する可能性がある。TP53/p53 転写活性を調節し、細胞増殖を阻害する可能性がある。TP53 のリン酸化と蓄積を促進する。RING 型ジンクフィンガー含有 E3 ユビキチンタンパク質リガーゼのユビキチンリガーゼ活性を増強する可能性がある。E3: 基質複合体における Ubl 結合酵素 (E2) のリクルートおよび / または安定化を介して作用することが示唆されている。

研究分野

-

画像データ



Jurkat 293 細胞株 (左から右へ) のライセートを MAGED1 抗体 (中央) を用いてウェスタンブロット解析した。MAGED1 マウスモノクローナル抗体は各レーンで 1:1000 に希釈した。二次抗体として、ヤギ抗マウス IgG H&L(HRP)抗体を 1:3000 に希釈したものを使用した。ライセートは 1 レーンあたり 35 μ g。